

近畿地方整備局 入札監視委員会（第二部会） 令和4年度第1回審議概要

開催日及び場所	令和4年8月22日（月） Web開催（本局：神戸地方合同庁舎 6階 局議室）	
委員	大辻 俊介（大辻公認会計士事務所、DCT税理士法人 公認会計士・税理士） 瀧 圭吾（神戸大学教授 第二部会長） 森川 英典（神戸大学教授 今回抽出担当者） （五十音順）	
審議対象期間	令和3年10月1日 ～ 令和4年3月31日	
報告事項	①発注状況報告 ②指名停止措置の運用状況報告 ③談合疑義事実の選定に関する基準に該当した案件の発生状況報告 ④再度入札における一位不動状況報告 ⑤低入札価格調査制度調査対象工事の発生状況報告 ⑥一者応札の発生状況報告 ⑦不調・不落の発生状況報告 ⑧高落札率の発生状況報告	（備考） ・①～⑧について、整備局資料に基づき説明を行った。
審議事項	総件数	（備考）
①抽出案件	7件	[抽出件名]
＜工事＞		
一般競争入札方式（政府調達協定適用対象）	1件	・大阪港北港南地区航路(-16m)附帯施設護岸(2)等基礎工事
一般競争入札方式（WTO対象外）	1件	・舞鶴港和田地区岸壁(-12m)地盤改良工事(第2工区)
一般競争入札方式（WTO対象外）	1件	・和歌山下津港北港地区防波堤(南)被覆工事
＜業務＞		
簡易公募型プロポーザル方式	1件	・尼崎西宮芦屋港尼崎地区岸壁(-10m)施工等検討業務
簡易公募型競争入札方式	1件	・八尾空港回転翼エプロン等舗装設計
簡易公募型競争入札方式	1件	・舞鶴港和田地区磁気探査
＜物品役務＞		
一般競争入札方式	1件	・標識灯購入

	意見・質問	回 答
委員からの意見・質問、それに対する回答等	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	なし	

意見・質問	回答
<p>【審議事項】</p> <p>1. 一般競争入札方式（政府調達協定適用対象） 「大阪港北港南地区航路(-16m)附帯施設護岸(2)等基礎工事」</p> <p>・本工事は、複数（1～3）工区ある護岸等基礎工事のうち、2工区にかかる工事であるが、発注にあたっては当該工区のみならず、全体としての品質が確保されるよう技術提案を求めているのか。また、参加者に既存の工事に関連するデータを提供したりしているのか。</p> <p>・技術提案書の評定からして適切な提案がなされているものと思慮するが、工事全体としての品質管理が重要。同じ業者が継続して受注できるわけではないので、これまでの施工経緯を踏まえた技術提案を求めるように今後も配慮されたい。</p> <p>・指定テーマに関する評価点がほとんど同じだが、提案内容も類似しているのか。</p> <p>・同じ点数をつけたということは、どの業者が落札しても同等の品質を確保できるということか。</p> <p>・入札額も近接しており、うち2者は調査基準価格を下回っている。もう少し入札額の精度を上げられそうだが。</p> <p>・調査基準価格を下回る入札の場合、どのような手続きを行うのか。</p>	<p>・全体の流れを無視して技術提案を求めているわけではなく、今回の技術提案では不等沈下の安定性も求めており、既存護岸との関係性を考慮した技術提案を求めている。既存工事に関するデータ等について、こちらから積極的に情報提供は行ってはいないが、求められれば閲覧できるよう用意はしている。</p> <p>・承知した。</p> <p>・提案内容は各者少しずつ異なり、堤体の安全性確保と不等沈下抑制の大きく2パターン。</p> <p>・そのとおり。</p> <p>・調査基準価格をわずかに下回ったものであり、精度が低いということではないと考えている。</p> <p>・施工体制に関する調査を実施するが、今回は調査を辞退されている。</p>

意見・質問	回答
<p>2. 一般競争入札方式（WTO対象外） 「舞鶴港和田地区岸壁(-12m)地盤改良工事(第2工区)」</p> <p>・技術評価点の内訳について、簡易な施工計画の得点が全者同点であるが、類似した提案内容だったのか。</p> <p>・施工計画を作成するうえで着目するポイントは業者任せか、こちらである程度テーマを絞ったうえで提案を求めることは、この発注方式では行わないものなのか。</p>	<p>・類似する点もあるが、それぞれ着目している点が地盤改良であったり、安全対策であったりと、少しずつ異なる。</p> <p>・本工事に適用される施工計画重視型では、各者が施工するうえで配慮すべきと考える内容を施工計画として提出してもらっている。こちらでテーマを指定し、技術提案を求めるやり方もあるが、本工事では前述の方法を採用している。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・技術評価点の内訳の、社会・地域貢献の評価内容はどのようなものか。 ・今回、作業船の保有状況については1者以外すべて0点となっているが、大体このような状況なのか。こういった船舶を保有していれば5点満点となるのか。 ・作業船の自社保有状況を加点対象とするということは、国交省として作業船の自社保有を推進したいということか。また実際に自社保有は進みそうか。 ・今回の工事で作業船を使用するから加点対象というわけではなく、前述の災害対応時の活用等を踏まえて、社会・地域貢献として評価しているということか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業船の保有状況や災害協定の有無等である。 ・今回の工事で使用できる作業船を保有している者が少なかった。満点となるのは、環境性能が良い船を新造し、保有していた場合など。 ・災害対応等では作業船が不足すると想定されることから、保有を推進したいと考えている。SCP船以外のもう少し汎用性の高い、例えば起重機船のような作業船であれば、加点となる業者も多いと思われる。 ・そのとおり。
--	--

意見・質問	回答
<p>3. 一般競争入札方式（WTO対象外） 「和歌山下津港北港地区防波堤（南）被覆工事」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加申請から入札書提出までに3者辞退されたとのことだが、原因は何が考えられるか。 ・資材価格が高騰するなかで、発注に際して国交省としてどのような対応をとるのか。 ・本工事で作られるブロックは工場で作られるものか。何か特殊な方法で作られるのか。 ・本工事の評価にあたって、やはり過去の施工実績が加点要素として重要となるのか。 ・成績評定点はどのように加点として反映されるのか。今回の参加者は2点の加点となっているが、大体そのくらいの点数なのか。 ・資材高騰による辞退が3者あったとのこと。参加辞退されることが今後、成績評定の差につながってしまうことを危惧する。国交省として施工業者が今後も引き続き成績評定点を 	<ul style="list-style-type: none"> ・資材価格の高騰により、採算が合わないため辞退したものと考えられる。 ・専門の調査会資料を参考にするほか、場合によっては入札参加者からの見積もりで積算することも想定される。また、ある程度工期が必要だが、資材価格の高騰を原因とした契約変更も行っている。 ・当局の作業ヤードで作っている。既存の型枠にコンクリートを流し固めて作られるものであり、そこまで複雑ではない。 ・過去5年間に当局において当該工種を受注していた場合、成績評定点に応じて加点される。 ・80点以上は5点、70点未満は0点というように配点が決まっている。今回の工事ではB及びC等級が対象であり、成績評定点が80点未満であることが多く、このような加点となっている。 ・拝承した。品質確保の観点からも、成績評定の底上げは非常に重要と考えている。

上げていく事ができるよう配慮をお願いしたい。

意見・質問	回答
<p>4. 簡易公募型プロポーザル方式 「尼崎西宮芦屋港尼崎地区岸壁(-10m)施工等検討業務」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本工事は老朽化対策を目的としているが、対象岸壁の建造年次は。またこれまでの補修履歴は把握されているのか。 ・これまでの維持補修履歴も踏まえた技術提案を求めることが重要と考えるので、港湾管理者との連携をとりつつ実施されたい。 ・本業務では設計は行わないのか。 ・本業務での検討から、施工実施までどのくらい期間を要するのか。 ・先行して工事を行った箇所についてフィードバックし、次工事に活かしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和40年代に建造され、供用後50年以上が経過し、かなり老朽化が進んでいる。大規模改修工事は国が実施するが、日常的な維持補修は、当該施設を管理委託された港湾管理者が行うこととなっているため、国において全て把握しているわけではない。 ・承知した。 ・現況どおりの設計とするため、今回設計は行わない。 利用中の岸壁であることから、どのように施工するかを検討するものとなっている。 ・一部は既に改修済みであり、予算との兼ね合いもあるが、今年度もしくは来年度に施工する見込みである。 ・承知した。

意見・質問	回答
<p>5. 簡易公募型競争入札方式 「八尾空港回転翼エプロン等舗装設計」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計基準が変わったとのことだが、どのように変わったのか。 ・結果的に一社応札となっているが、このような業務は一者応札となることが多いのか。 ・履行期間が2月末からではなく4月以降であれば、参加しやすかったのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主に対象機種が変更されることに伴って、設計条件が変更されている。 ・入札資料のダウンロード者にヒアリングしたところ、管理技術者が配置できないことから、参加を見送ったとのこと。2月末に発注となる公告を年末に行ったこともあり、多くの業者が既に他業務を受注していたと考えられる。 ・予算執行の都合上、年度中に発注せざるを得なかった。

<ul style="list-style-type: none"> ・技術提案書の評価結果のうち、評価テーマに対する技術提案の点数が低いのが、原因はあるか。 ・提案内容はこういった内容だったのか。 ・一者入札となって他に参加者がいない状況にあって、技術提案の実現性はどのように担保されているのか。 ・参加基準は妥当と思われるが、一者応札となることを防ぐため、更に資格要件を緩和することは難しかったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術提案書に、提案内容を裏付ける類似実績等の記載がなく、加点されなかった。 ・資材価格の高騰を踏まえた提案があり、過去の実績を提示しにくかったものと推測する。 ・技術提案書における実現性の根拠について記載が乏しい場合、ヒアリングにより過去の実績等を確認し、問題無いか確認している。 ・品質確保の必要性が高く、安易に資格要件等を緩和することは避けたいと考えている。類似業務の設定で多少緩和を行っている。
--	--

意見・質問	回答
<p>6. 簡易公募型競争入札方式 「舞鶴港和田地区磁気探査」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術提案書の評価結果について、「予定技術者の経験及び能力」の項目で点数に差がついているが、具体的に何が要因か。 ・本業務の特性を鑑みると、技術士よりも港湾海洋調査士（危険物探査部門）の方がより必要な資格と感じるが、その点は考慮されなかったのか。 ・入札を行った4者のうち3者が予定価格超過とのことだが、考えられる原因はあるか。 ・落札者以外が予価超過となっており、不落となる可能性もあったことから、発注時期や予定価格設定について、もう少し配慮・工夫をされてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資格要件のうち、技術士資格を持っている者の加点が大きいほか、表彰の有無により点数に差がついている。 ・技術士とあわせて、港湾海洋調査士（総合部門、危険物探査部門）を専任で配置できる場合は、加点対象としている。 ・本業務に必要な作業船を現地へ調達するにあたり、協力会社から貸与を受ける場合や、他港から回航する場合等、それぞれ条件が異なるため、予価超過となったと考えられる。また、年度末発注ということもあり、大半の企業がその他の業務を抱えていることから、無理をして受注する必要がないと考えたのではないかと推測する。 ・前述の作業船調達条件については、各者によりばらつきが生じるため、このような状況が続くようであれば作業船の積算について、積算基準によるか、参加者からの見積もりによるか、今後検討したい。

意見・質問	回答
<p>7. 一般競争入札方式 「標識灯購入」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の参加者は、標識灯を製造している業 	<ul style="list-style-type: none"> ・標識灯の製造及び販売を行っている業者である。

<p>者か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者数が10,000者以上となるのは非常に多く感じるが、実際標識灯を販売している者はどのくらいいるのか。 ・落札率がかなり低くなっているが、何か原因があるのか。 ・物品購入で落札率が低い場合、特に納入後の不具合がないか、保証期間がどれくらいあるか、また耐用年数などフォローアップをしていただきたい。安かろう悪かろうではないが、納品後、補修等で結果的に高くなるようなことがないように。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統一資格のうち「物品の販売」のB、C及びD等級の有資格者を対象者として記載しており、標識灯の販売者数は把握できていないが、過去の入札実績等からかなり少ないものと認識している。そのため、今回もB、C及びD等級と等級拡大を行った。 ・一般競争入札方式であり価格競争となるため、落札率が低いのは落札者の企業努力と考えられる。 ・承知した。本件に関しても、納品後の検査は充分行っており、使用に際して問題が無いことは確認済みである。
--	--

意見・質問	回答
<p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「談合疑義事実の選定に関する基準」に該当した場合、何らかの調査を実施するのか。 ・現場状況が悪いとなぜ落札率が高くなるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入札書に添付されている内訳書を確認する。 ・限られた条件の積算を行うことから、通常より選択肢が少なくなるため、価格が近接するものと思われる。

意見・質問	回答
<p>8. 全体を通して なし</p>	<p>なし</p>